

令和6年9月27日
河内長野市立千代田小学校
校長 佐々木 盛文

令和6年度「全国学力・学習状況調査」「すくすくウォッチ」の結果について

残暑がまだまだ厳しい季節ですが、保護者の皆さまにおかれましてはご健勝のことと存じます。平素は本校の教育活動にご支援ご協力を賜りまして誠にありがとうございます。

さて、今年4月18日（木）に6年生を対象に「全国学力・学習状況調査」を、4月23日（火）に5・6年生を対象に「すくすくウォッチ」を実施しました。本調査は、児童の学力や学習状況を把握・分析し、成果と課題を検証することで、児童における教育指導の充実や学習状況の改善に役立てることを目的としています。調査の結果より、子どもたちがそれぞれの学習の到達状況を知り、今後の学習の改善につなげてほしいと考えています。また、学校でも児童一人ひとりの学力を向上させるための教育活動を見直し、課題改善のための取り組みを進めていきます。

6年生 学力・学習状況調査及びすくすくウォッチの概要

＜国語＞

概要

平均正答率は、府と比較して約4ポイント上回っていた。評価の観点点を府と比較すると思考・判断・表現で6.2ポイント上回り、知識・技能でも0.3ポイント上回った。また、無解答率も非常に低く、意欲的に取り組んだことがわかる。14問中で9問が無解答0であった。

特に成果が見られた問題例

②ー(2)「情報と情報の関係づけの仕方、図などによる語句と語句の関係の表し方を理解し使うことができるかどうかをみる」選択式問題では、正答率は91％であった。図を使った情報の整理の仕方は理解できている。短い言葉で情報を整理しまとめる力がついてきた。

③④「日常的に読書に親しみ、読書が、自分の考えを広げることに関与することに気づくことができるかどうかをみる」選択式問題。正答率は85.1％で全国よりも10.5ポイント高い。短い文を読んで、書いてあることの概要をつかむことができていた。

特に課題が見られた問題例

③ー「文の中における主語と述語の関係を捉えることができるかどうかをみる」問題は59.7％と国や府よりも正答率が低い。文章が長くなると主語が何かを正しくとらえることができていない。

①は全体的に正答率が低い傾向にある。いくつかの資料の中から必要な部分だけを読み取る力に課題があると考えられる。

＜算数＞

概要

平均正答率は、府・全国と比較して約5ポイント上回っていた。評価の観点点を府と比較すると、思考・判断・表現では7.9ポイント上回り、知識・技能では4.1ポイント上回った。また、無解答率も非常に低く、意欲的に取り組んだことがわかる。全ての問題で府より無解答率が下回った。

特に成果が見られた問題例

「図形」領域を記述式で解答する③④の正答率が最も高く、91％であった。これは府より約20％上回っている。角柱の説明を記述する問題で、例を参考に書く力がついてきたと考えられる。

「数と計算」領域である①、②の正答率も高くなっている。特に②①では9.6ポイント、②②では7.9ポイント府より上回っている。計算の仕組みについて理解ができていると考えられる。

特に課題が見られた問題例

「データ活用」領域を短答式で解答する⑤②では、府と比べると4ポイント下回っていた。

「変化と関係」領域を記述式で解答する④③では、正答率が最も低かった。二人の速さを比べてその理由を記述する問題で、理由を明確にして書く力が育っていないと考えられる。

＜理科＞

概要概要

全体の平均正答率は、府と比較して0.5ポイント上回っていた。特に知識・技能を問う問題の正答率が、府平均より2.2ポイント下回り、思考・判断・表現を問う問題の正答率が、5.3ポイント上回っていた。

特に成果が見られた問題例

②③-2が府より10ポイント上回っている。四年生で習った乾電池の問題であった。また、②④-2が府より8.1ポイント上回っている。5年生で習った振り子の問題であった。どちらの問題も、基本的な内容を問う問題で、定着度が高いと考えられる。

特に課題が見られた問題例

①(5)チョウの育つ順番を問う問題では府と比較して6.9ポイント下回っていた。また①(1)夕日が沈む方角を見つける問題では府と比較して5.3ポイント下回っていた。どちらの問題も、基本的な内容をもとに少し考えて答える問題であり、活用する力が不足していると考えられる。

＜すくすくウォッチ（教科横断的な問題わくわく問題）＞

概要

全体平均正答率は、本校68.3％、府68.5％で大阪府を約0.2ポイント下回った。図や表、グラフ、会話文等の内容を関連付けて読み取る問題で、児童にとって身近なことを題材にしている答えやすいような問題が多かったが、正答率はあまり高くなかった。

正答率、平均正答数、中央値、標準偏差を見ると、大阪府と同じような傾向である。

特に成果が見られた問題例

無回答率が3％前後で、問題に意欲的に取り組んでいるといえる。資料を読み取って並べかえたり、条件に合った選択肢を選んだりする問題はよくできている。

特に課題が見られた問題例

資料から自分なりの課題を読み取り、それに対する工夫を考える問題の正答率が40％と低くなっている。また資料を読み取り、項目別に整理する問題では正答率20％に対して、準正答率が60％になっており、細かいところまで読み取る力が身につけていないと考えられる。

プログラミング的な思考が問われる問題に対して正答率が低い。資料からわかることをイメージして読み取ることが難しい。

5年生 すくすくウォッチの概要

＜国語＞

概要

全体平均正答率は、本校68.3％、府73.4％と府を下回った。「知識・技能」についての正答率は本校68.3％、府73.4％、「思考・判断・表現」についての正答率も、本校56.4％、府64.9％とともに府を下回る結果となった。

特に成果が見られた問題例

言葉の意味を問う問題、指示語の指示内容を問う問題において、正答率が高かった。ローマ字の問題も正答率は高く、無回答率も低かった。

特に課題が見られた問題例

主語と述語の関係を捉えたり、能動的表現を受動的表現に直したりする問題、故事成語の意味を問う問題の正答率が非常に低かった。

＜算数＞

概要概要

全体平均正答率は、本校32.9％、府36.7％と府を下回った。「知識・技能」についての正答率は本校35.8％、府42.5％で府を下回り、「思考・判断・表現」についての正答率は、本校32.8％、府32.5％と府を上回る結果となった。

特に成果が見られた問題例

図形を構成する要素や、性質を理解していることがわかる。記述の平均正答率が前年度よりも上がってきている。無回答率が府に比べて低いことから、問題を読み取り、自分の考えを記述する力がついてきていることがわかる。

特に課題が見られた問題例

記述式の問題については、全体を通して正答率が低い。学力テストの出題形式に慣れていないこと、何を問われているか理解できていないことが考えられる。

<理科>

概要

全体平均正答率は、本校 61.9%、府 61.9%で府と同じであった。「知識・技能」の正答率は0.9 ポイント府を上回り、「思考・判断・表現」の正答率は1.6 ポイント府を下回った。

特に成果が見られた問題例

磁石の問題では、府と比べて正答率が約 10 ポイント高かった。

特に課題が見られた問題例

磁石の発展的な問題では、府と比べて正答率約 14 ポイント低かった。また、全体的に無回答率も高かった。

<すくすくウォッチ（教科横断的な問題わくわく問題）>

概要

全体正答率が本校 55%、府 57.9%と府をやや下回った。観点別にみても、全項目で正答率が府平均を下回っており、特にCの項目では、府と比較して正答率が 4.4 ポイント下回った。

図や表、グラフ、会話文等の内容を関連付けて読み取る問題で、児童にとって身近なことを題材にしていたが、十分な理解には至っていないと考えられる。

特に成果が見られた問題例

資料を読んで並べ替えたり、条件を読み取って思考したりする問題はよくできていた。

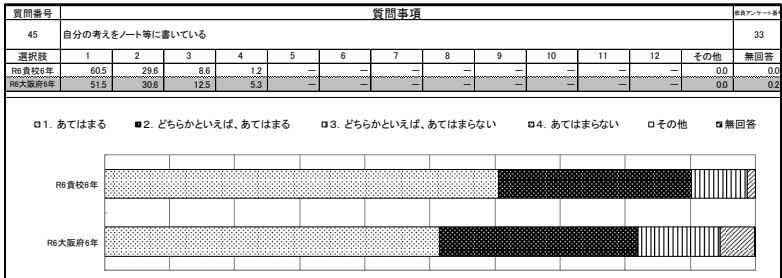
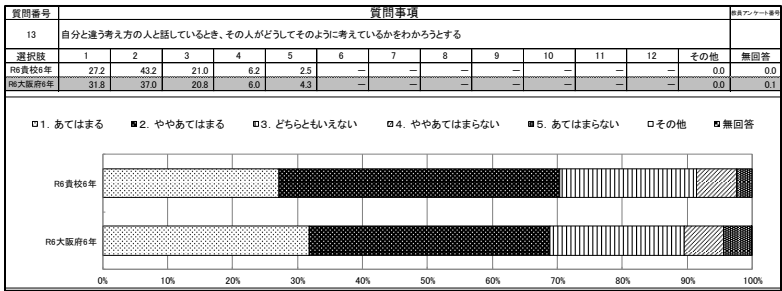
1	(1)	1	(2)
---	-----	---	-----

資料を読み取って適切な選択肢を選ぶ問題はよくできている。府に比べると、記述式の無回答が少なく、意欲的に取り組んでいる。

特に課題が見られた問題例

プログラミングの思考が必要とされる問題、複数の条件を関連させて考える問題に課題が見られた。

6年生 アンケート



概要

多くの項目において府と比べて、肯定的な意見をもっている児童が少なかった。子どもたちの頑張りや成長を褒めたり、友達の良いところを見つけたりする活動を通して、自己肯定感を高めていく必要がある。

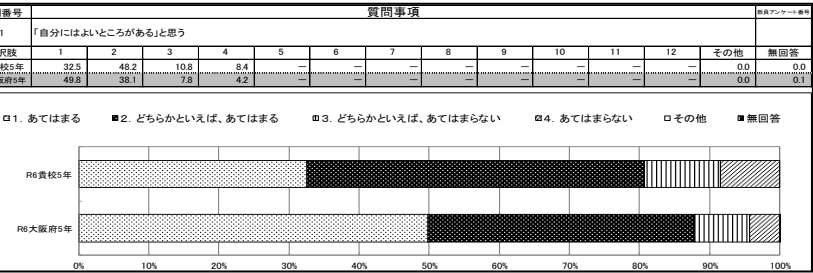
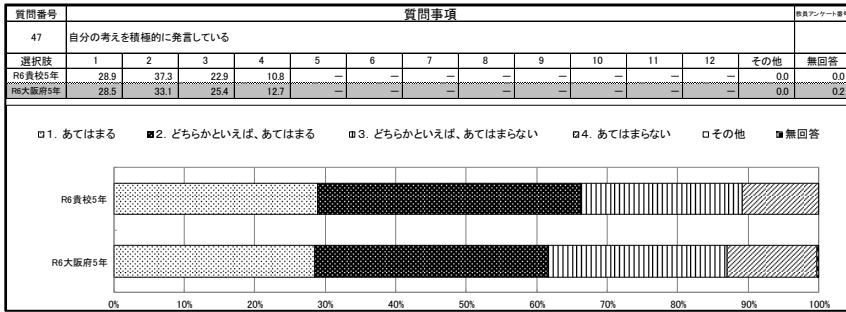
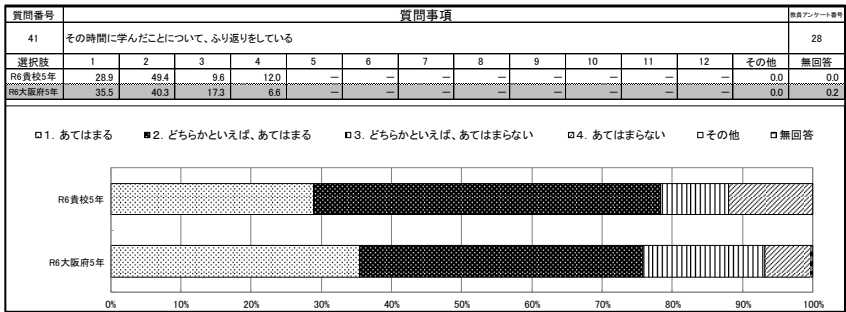
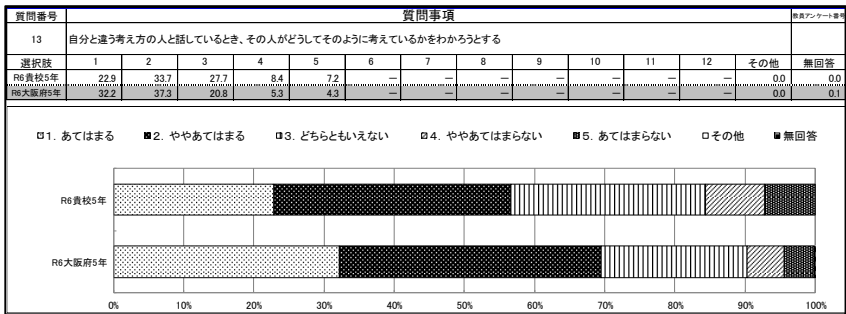
特に成果が見られたアンケート項目例

今年度、学校全体で取り組んできた自分の考えを書くことにおいて、「自分の考えをノートに書いている」と答えた児童の割合は、あてはまる・どちらかといえばあてはまるを合わせると、府を上回った。

特に課題が見られたアンケート項目例

自己肯定感や粘り強さに関する質問では、肯定的な回答が府の平均を大きく下回った。

5年生 アンケート



概要

自分の考えをもち、その考えを相手に伝える活動を大切にしてきたことで、自分の考えを積極的に発信している児童が多くなってきた。これは、授業のめあてを意識したり、学んだことを振り返ったりする活動を増やしてきた成果であると考えられる。一方で、自分と違う考え方の人と話しているとき、その人がどのように考えているかをわこうとする児童の割合が低くなっており、友だちや相手の考えを理解しようとする意識を持たせる必要がある。国語の学習では、内容の読み取りはもちろん、筆者や登場人物がどのように考えているかを思考する授業が必要になってくる。

特に成果が見られたアンケート項目例

思考力・判断力・表現力の育成を推進してきた成果として、「授業の振り返りをする」「自分の考えをノートに書いている」「自分の考えを発信する」という質問事項に対する肯定的な回答が高かった。また、「将来の夢や目標をもっている」や「頑張り屋である」という質問に対しても、肯定的に回答する児童の割合が高かった。

特に課題が見られたアンケート項目例

「自分にはよいところがある」という自己肯定感に関する質問では、肯定的な回答が府の平均を下回った。また、「あきらめない」「一生けんめい努力する」という質問でも、肯定的な回答が低くなっていた。

結果を受けて

<学校が重点的に取り組んでいくこと>

自分の考えを表現する（書く、友達に伝える）力をつけるための授業改善に取り組みます。学習を生活と結び付けて捉えらえるようにするため、授業の組み立てを見直します。

<児童のみなさんにしっかり取り組んでほしいこと>

自分で考えることを大切にして、「考える」習慣を身につけましょう。そして考えたことを友だちや先生に自分の言葉で伝えましょう。伝えることで考える力が育ち、書く力も高まります。

<保護者のみなさまに協力してほしいこと>

学習面はもちろん、生活の中での小さな頑張りを見逃さず褒めてあげて下さい。そして、お子様の考えを受け止め、助言してあげて下さい。